

平成 28 年 3 月 31 日発行  
 京都府丹後保健所 企画調整室  
 (丹後地域包括ケア推進課)

## 1. 平成 27 年度第 2 回丹後地域オレンジロードつなげ隊圏域連絡会の報告

3 月 17 日に開催しました上記会議の概要について報告します。株式会社京都銀行岩滝支店の安藤支店長に窓口対応での事例についてお話いただきました。



### 企業からの報告

「銀行窓口での対応の現状と課題について

～具体的事例からの考察～

株式会社京都銀行 岩滝支店 支店長 安藤 太郎氏

銀行窓口で対応した、入院や入所されている場合に本人の元へ銀行員が電話確認や時には何うことで手続きができた事例や、逆に本人の意識がない場合や死亡している場合は、本人確認ができず取扱い不能であった具体的事例を報告いただきました。

銀行は本人確認の重要性を重んじる。虚偽事例であることもあるため慎重にならざるを得ない。基本は本人確認、本人意思が重要。行員の言葉の使い方一つで相手の態度が変わることも多く、否定語は使わないように指導している。

例) ×「本人確認できなければ、手続きできません」

○「手続きを進めるために、本人確認をさせてください」

\*成年後見人制度をもっと活用してほしい。手間などはあるが、今後のことを考えると有効だと思う。実際に、制度を利用されていて後悔したという人は聞いていない。

## 2. 平成 27 年度の丹後地域オレンジロードつなげ隊の取組について

### 活動実績の概要報告

今年度3月17日までに計21回1421名に啓発を行いました。

市町が主導で行った活動と、各イベントに合わせて隊員が自主的に行った活動と、パターンが分かれています。

声かけ体験は6回実施しました。好評につき今後も続けていきたいと思えます。

隊員からの企画書に基づき、自主的に活動していただきたいという思いは今後も継続させたいです。様式は啓発物品の増加に伴い、修正する予定です。

のぼりやプラカード、タスキ、その他保健所の啓発物品の紹介をしました。

## 事前アンケート概要報告

地道な活動が大切だという意見。小学生向け啓発、劇団結成、独自の活動など様々な意見が出された。

(別添アンケート集計参照)

グループワークでも、様々な意見を出し合い、今後の方向性を探りました。そのまとめは下の表へ掲載しています。

### 3. 平成 28 年度の丹後地域オレンジロードつなげ隊の取組について

グループに分かれて、どんな人をターゲットにするのか、どんなやり方で認知症を知ってもらおうのかを話し合ってもらいました。

	ターゲット	やり方	補 足
1	小中学生徒、保護者、 教員	PTA行事などで保護者・教員参加型の寸劇をする。	老人と一緒に生活している子供が減り、実感できない子供もいるだろうが、啓発の種をまき続ける事が大切
2	スーパーの店員	主婦目線で DVD を作成（主婦は見た！）し、サポート養成講座で見ってもらう。	二部構成などで「お客さん編」も作成
3	学校の先生、保護者	認知症サポーター養成講座で、疑似体験を実施、生徒に教えられるような先生に。	高齢夫婦の子（先生）が親の認知症に気づかず、放っておいた事例を元に。
4	運動会で老若男女に	主催者とコラボしてゲーム感覚で啓発グッズを景品にする。認知症予防体操を隊員が披露する。	27年度に運動会でリフレットを配ったら後日問い合わせの連絡があった。孫からの言葉ならちゃんと聞いてくれるのでは？

各グループからこのような意見が出されました。次回会議で具体的な活動計画を立てますので参考にしてください。

### 4. 次回の丹後圏域連絡会の開催について

今回は、5月下旬を予定しています。地域のイベントや研修会等のスケジュールに沿って年間活動計画を立てます。

また、各地域で活用している啓発グッズ（DVD、シナリオ、グッズ）などを持ち寄り、一覧管理し、有効活用していきたいと考えています。